

1 学校教育目標	
教育目標……………	校訓「明日へ」の理念のもと、教育目標である「自らに誇りを 友に誠を 人生に夢を」を柱として、活力ある学校づくりを推進し、主体的に自己実現を図る生徒を育成する。
中・長期目標……………	定時制の特色を生かしたキャリア教育を推進し、学力の向上や進路の実現を図る。

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
<p>・生徒が自己肯定感をもてる授業を推進し、ICTを活用した研究授業をするなどして教員の指導力の一層の向上に取り組むことが必要である。</p> <p>・卒業後につながる生活指導とともに、「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」における資格取得の向上への取組など、早期からキャリア教育を意識して進路支援の充実に努めることが必要である。</p> <p>・支援の必要な生徒への対応を充実するため、校内の体制づくりを推進し、出来るだけ早期から外部関係機関との連携し生徒支援の切れ目がないようにしていく。</p> <p>・ハローワーク等の専門機関との連携を深め、進路指導における全体の指導力の向上が必要である。</p>	

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題	
<p>(1) 基礎基本の徹底とキャリア教育の充実</p> <p>(2) 1人1台端末等を活用した主体的な学びの推進</p> <p>(3) 業務改善による教職員の資質向上と健康増進</p>	

4 自己評価					5 学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等
学習指導	○生徒が自己肯定感をもって取り組めるような授業の工夫と改善	・理解しやすい授業、わかる授業により基礎基本の定着を図り、参加している実感や興味をもてる授業の工夫を進める。	生徒への授業アンケートを実施した結果、「あてはまる」と「大体あてはまる」の合計が 4: 80%以上であった。 3: 60%以上であった。 2: 40%以上であった。 1: 40%未満であった。	4	・2学期末に事業アンケートを実施した。「生徒の授業の取り組みについて」は98(昨年95)%が、「教員の授業について」は94(昨年96)%と評価基準の80%を超えた。本校定時制は全日制と比べクラス人数が少なく、生徒一人ひとりの実情に応じた授業展開がアンケート結果に繋がっていると考えられる。 ・公開授業中(11月)に教員相互で授業見学を行い、授業改善につなげている。	A
	○ICTを活用した授業展開の研究を行い、教員の指導力の向上を図る。	・ICT機器使用の研修会を計画するとともに、検討会等機器利用の実践成果を共有しスキルアップに繋げる。	4: 研修会や検討会に参加し、指導力向上に大いに繋がった。 3: 研修会や検討会に参加し、指導力向上に繋がった。 2: 研修会や検討会に参加したが、思うように指導力向上に繋がることができな 1: 研修会や検討会に参加したが、指導力向上に繋がることができなかった。	3	・年度初めに生徒全員にタブレットを配布し、教室には電子黒板が設置された。また、教員用のタブレットも1台ずつ支給されICT環境は整備された。機器の使用に不慣れな教員が多く、相互研修や機器の効率的な使い方の検討会も適宜開催し、徐々ではあるがスキルアップに繋がっている。また、週1回支援員の方が来校され、基本的な操作方法や効果的な指導方法を習うことが、ITCを用いた授業展開の工夫に大いに役立った。しかし、リモート授業に関してはスキル不足なところは否めなく、今後の課題として考えている。	
生徒指導	○スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー及び養護教諭等と連携した支援体制の充実	・サポートを要する生徒の増加に伴い、その対応と支援を的確なものとするために外部との協力をさらに発展させる。また保護者との連絡を頻繁に行い、家庭との協力や相談を密にする。	4: 校内だけでなく校外の専門機関とも連携がなされ状況が改善した。 3: 校内における連携が深まり生徒への対応が奏功した。 2: 生徒への対応が図られた。 1: 生徒への対応に不十分な点が多かった。	4	・学校側(担任、養護教諭、教育相談担当)とスクールカウンセラー、保護者間での報告、連絡、相談は適宜、柔軟に行われてきた。希望に応じて、保護者のカウンセリングも行っている。 ・また、校外での各組織(市役所、児童相談所)とも必要な場合は連絡を取り、事案によっては協議に参加してきた。	A
	○日常の生徒の意識や感情を見失わず、的確な配慮と支援・指導を行う体制の構築	・入学までの生育環境や家庭環境、年齢が多様多様であり、学校不適応による意欲の低下やいじめなどの人間関係トラブルを各学期のアンケート調査や個人面談により事前に察知し、全教員でその情報の共有をはかる。	4: 個別の相談等に全教員が対応でき、個々の情報と支援についても共有できた。 3: 個別の相談等に関係教員が対応し、他教員に情報提供した。 2: 支援と指導に取り組んだが、事後対応が主であった。 1: 支援と指導が不十分であった。	3	・生徒一人ひとりの状況を担任が把握し、教育相談や生徒指導担当との情報共有を行っている。全体の職員会議において、定期的に情報交換を行った。個別支援や指導方法については、共通理解のもとに取り組んできた。 ・飲食を伴う学校行事が中止や変更となる中、個別支援が必要で集団生活が難しい生徒のますますの経験不足や友人関係の希薄さが憂慮される。	
進路指導	○個々の生徒の進路支援の充実	・進路選択や決定において情報交換を定期的に行い、個々に応じた具体的な支援に繋げる。	4: 7割以上の生徒に対し、支援を行うことができた。 3: 半数以上の生徒へは支援をすることができ具体的な進路に結びついた。 2: 情報交換はしたが支援には結びつかなかった。 1: 情報伝達に終わった。	4	・例年通りの進路決定に伴う支援をしてきたが、多くの生徒において自ら進路決定ができない。環境的に新型コロナに伴う求人減が職種によってはあるものの全体的にはそれ程落ち込みはないと思う。 具体的な進路先が決まらない生徒へは卒業まで、継続的に支援を続けていく。	B
		・「総合的な学習の時間」や放課後を利用して、検定の合格を目指す。	4: 生徒の70%以上が受検し、合格率は60%以上であった。 3: 生徒の70%以上が受検し、合格率は40%以上であった。 2: 生徒の50%以上が受検した。 1: 生徒の50%未満しか受検しなかった。	2	「総合的な学習・探究の時間」のスキルアップタイムは定着してきたが、生徒の実施意欲に大きな差を感じた。合格率や受験意識を高めるために、個人の選択と検定・資格の種類の一貫性をなくすことが大切である。事前のオリエンテーションをしっかりと行い改善する必要がある。その反面、意識の高い生徒は、ビジネス文書検定1級合格者が1名、危険物取扱者乙種第4類合格者が2名と成果も出ている。	
特別活動	○生徒会における自主的な企画と活動を促し、生徒自身の力で良い習慣が引き継がれるように支援する。儀式的活動では望ましい集団活動を通して、集団や社会の一員としての実践的態度を育てる。	・新入生歓迎会、明日葉祭、体育大会、卒業生を送る会などの生徒会行事に変更や工夫を加えることで、多くの行事を実施し、全生徒を主体的に活動させる。始業式や終業式、定体連行事などの学校行事も生徒それぞれが積極的に参加し、思い出に残るものとさせる。	4: すべての行事で主体的かつ協動的に活動させることができた。 3: 2つ以上の行事で主体的かつ協動的に活動させることができた。 2: 1つ以上の行事で主体的かつ協動的に活動させることができた。 1: すべての行事で主体的かつ協動的に活動させることができなかった。	3	・昨年は多くの生徒会行事が中止となったが、今年度は、変更や工夫を加えることで、新たな行事も追加実施できた。 ・生徒数は40名余りではあるが、集団に参加できない、意欲が低いなど、多様な生徒がいる。なるべく多くの生徒が参加できるように行事に変更や工夫を加えて、様々な経験を積ませていきたい。	B

業務改善	組織的な取組 ○教員全員による業務内容の点検と改善	・ハローワーク等の専門機関との連携を深め、教職員間の情報交換を活発に行い、全員で進路指導にあたる。	4: 教員同士の連携が進み教育活動全般がスムーズに行われた。 3: 教員同士の連携は進んだが指導力の向上までは至らなかった。 2: 教職員同士の連携は従来通りで仕事分担に大きな変化はなかった。 1: 教職員同士の連携が進まずに学校教育活動に支障がでた。	4	・進路講演会やキャリアセミナーにおいて、ハローワークや山口しごとセンターから講師を招き進路意識の醸成を図った。また、職員会議等で情報交換を行い進路情報について情報共有を行っている。 ・また教育相談等においても、保護者、スクールカウンセラーと連携をして取り組み、常に教職員間で情報共有を行っている。	A
	整理整頓 ○職員室の作業環境の見直しによる業務の効率化	・定期的に職員室の書架や校内サーバ内の文書を整理し、業務の精選と情報へのアクセスの効率化を図る。	4: 学期に1回以上整理をした。 3: 年間2回整理をした。 2: 年間1回しか出来なかった。 1: 1回も出来なかった。	3	・回覧の電子化を始め、効率化を図っている。またH.P.の効率的な運用についても取り組んでいる。 ・サーバ内の各分掌のフォルダー内の整理を進めている。	

【成果】	<p>①学校側(担任、養護教諭、教育相談担当)とスクールカウンセラー、外部機関と連携して生徒支援を行うことができた。</p> <p>②検定学習についてビジネス文書検定や危険物乙種第4類等、難しい資格を取得した生徒もでてきており、スキルアップタイムについて定着が図れている。</p> <p>③コロナ禍の中、創意工夫を行うことで昨年度は多く中止になった生徒会行事を今までとは異なる形で実施することができ、生徒の連帯感を高めることができた。</p> <p>④4年生に対して全ての生徒に個々に応じた支援を行い、ほとんどの生徒が進路実現に向けて努力をし目標を達成した。</p>
【課題】	<p>①ICT機器の活用について、スキルアップしていく必要がある。</p> <p>②個別支援が必要な生徒、集団での活動が苦手な生徒が増加傾向にある。進路実現も含めて多面的に成長を促す必要性がある。</p> <p>③総合的な学習の時間について、検定試験の合格率はある程度改善されたが、、生徒の実施意欲に大きな差があり、課題が残る。</p> <p>④コロナ禍の影響もあり、PTA活動への保護者の参加率が低い状況であった。全日制・定時制の垣根を超えたPTA活動への参加が課題である。</p>

7 次年度への改善策	<p>①ICT機器の活用について、研修会の参加や校内研修の活性化をより促進していく。</p> <p>②入学後すぐに中学校、関係機関と連携して生徒支援の切れ目がないようにしていく。また早期からキャリア教育を意識して進学指導を教職員全体で取り組んでいく。</p> <p>③新学習指導要領へ対応した「社会に開かれた教育課程」の編成をする中で、計画的な進路体制を整える。</p> <p>④PTAの啓発活動のために、新たに作成したホームページやPTA新聞などを通して参加できる行事を、保護者へ周知徹底する。</p>
------------	--